

---

# 新規コミュニケーション補助機器作成に向けた 失語症のある方のニーズ調査

---

## 結果報告書

NPO 法人日本失語症協議会理事長 八島三男

(旧 NPO 法人全国失語症友の会連合会)

日本失語症協議会事務局長 園田尚美

臨床福祉専門学校言語聴覚療法学科 黒川容輔

横浜市立大学医学部神経内科学・脳卒中医学 浜田智哉

臨床福祉専門学校言語聴覚療法学科 飯塚祐基

臨床福祉専門学校言語聴覚療法学科 菊地香織



## はじめに

失語症は脳卒中や頭部外傷などの脳損傷に起因する言語障害であり、「聴く」「話す」「読む」「書く」すべてに影響を与える(笹沼 1982)。我が国においては正式な調査はまだ行われてはいないが、50万人はいると推測されている(松田 2003)。

失語症のある方には多少はあるもののコミュニケーションの障害があらわれる。報告によると、コミュニケーションのみで収まらず、情報へのアクセス制限、活動への参加制約といった二次的な問題が存在している(八島ら 2013)。

よって、生活場面におけるバリアに対して、失語症のある方がバリアを乗り越えるための社会環境の整備をしていく必要がある。この方法のひとつに補助器具がある(Huxら 2003)。現在、情報化が進み数多くの機器が日常生活で増加しており、失語症のある方の使用機会、使用方法について調査をする必要がある。

そこで今回、現在の失語症のある方の情報に関するニーズについて、生活技能および社会的ニーズの実態調査を行なうこととした。加えて、情報の入手および表出手段、社会生活に直結する就労・就学、個人の嗜好である趣味についての調査を行なうこととした。本調査が失語症のある方とその家族のニーズを明らかにし、生活の改善に貢献することを強く願う。

なお、本報告書は失語症のある方にも読みやすくすることを目的に、本文は文字を14ポイント、1文を60字以内にて構成した。

調査にご協力頂いた各地の友の会会員およびご家族の皆様ここに深く感謝の意を表します。

結果報告書作成者 黒川容輔、浜田智哉、飯塚祐基、菊地香織

## 目次

はじめに

### I . 調査概要

- 1 . 調査目的
- 2 . 対象者
- 3 . 調査内容
- 4 . 調査方法

### II . 調査結果

1. 生活技能について
2. 社会的ニードについて
3. 困難に感じたこと
4. その他、自由記載項目について
  - ①情報収集(テレビ・ラジオ)について
  - ②携帯電話・スマートフォンの使用について
  - ③パソコンの使用について

④就労・就学について

⑤勤務・学業補助について

⑥病前の趣味について

### Ⅲ．調査結果まとめ

1. 発症後に維持している項目・率について
2. 発症後にやめた項目・率について
3. 男女差について
4. 居住地（都市部在住、郊外在住）の差について
5. 発症時年齢（60歳未満、60歳以上）の差について

### Ⅳ．失語症のある方のニーズについて

### Ⅴ．文献

### Ⅵ．調査用紙

### Ⅶ．謝辞

## I . 調査概要

### 1 . 調査目的

現在の失語症のある方の情報に関するニーズについて、実態を把握することを目的とした。さらに、性別、年齢、居住地によってニーズの違いがあるかを理解することを目的とした。

また、情報の入手および表出手段、社会生活に直結する就労・就学、個人の嗜好である趣味にどのようなニーズがあるかを把握することを目的とした。

---

#### 性別

男性 41名 女性 11名 未回答 1名

#### 年齢

平均年齢 64.6 歳 ( 40 歳 ~ 85 歳 )

#### 発症後経過期間 ( 年 )

平均期間 11.4 年 ( 1 年 ~ 42 年 )

#### 居住地区分

都市部 41名 郊外 10名 未回答 2名

## 2. 対象者

日本失語症協議会会誌「JAPC ニュース第28号言葉の海新聞版」(2016年3月発行)にて質問紙を配布し、回答のあった失語症のある方53名(表1)を対象とした。

表1 調査回答者

## 3. 調査内容(巻末の調査用紙参照)

現在の情報の受信と発信について以下の4点を尋ね、回答を求めた。回答方法は○や×で記入するものと、自由記載であった。

- 1) 生活技能および社会的ニーズについての病前と病後の実施状況、工夫や援助の有無について
- 2) 情報機器(テレビ・ラジオ、携帯電話・スマートフォン、パソコン)の使用状況
- 3) 就労・就学の支援の具体的内容
- 4) 病前の趣味の継続性

## 4. 調査方法

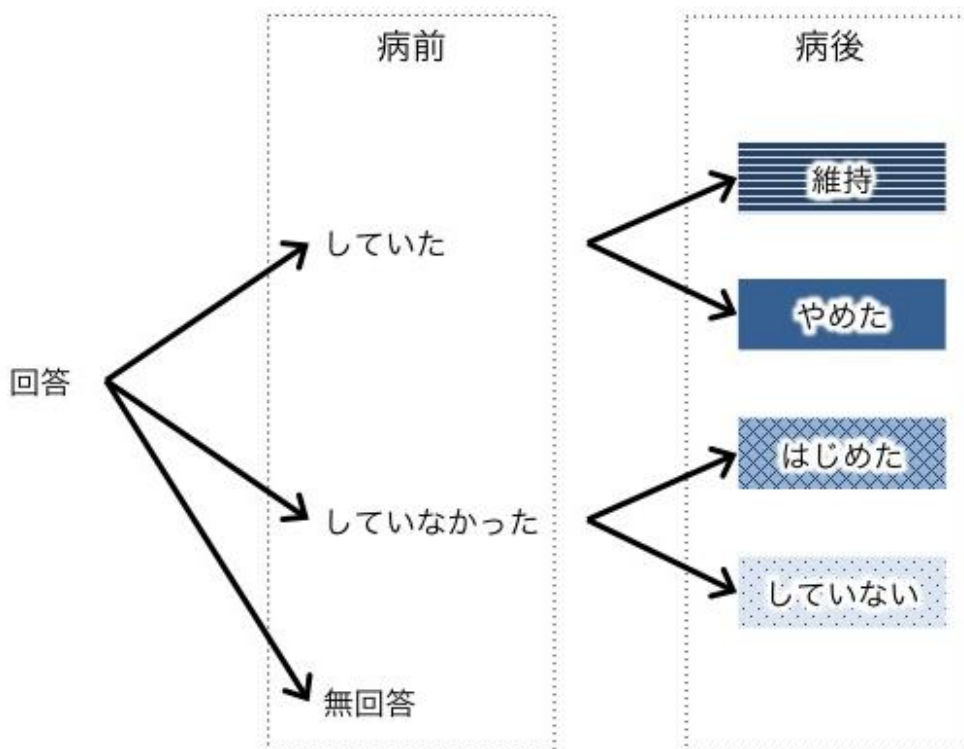
期間：2016年3月～10月

方法：アンケート用紙を郵送、手紙・FAXにて返送

失語症のある方へ広く聴き取りをするため、日本失語症協議会会誌での郵送調査を行なった。調査項目の作成は園田尚美、黒川容輔、浜田智哉が行なった。集計は黒川容輔、飯塚祐基、菊地香織、結果解析は浜田智哉、飯塚祐基、菊地香織、結果まとめおよび提言は黒川容輔、浜田智哉、飯塚祐基、菊地香織で担当した。(敬称略)

## Ⅱ 調査結果

アンケートの回答は図1のように病前の状況と病後の状況に応じて4カテゴリーに

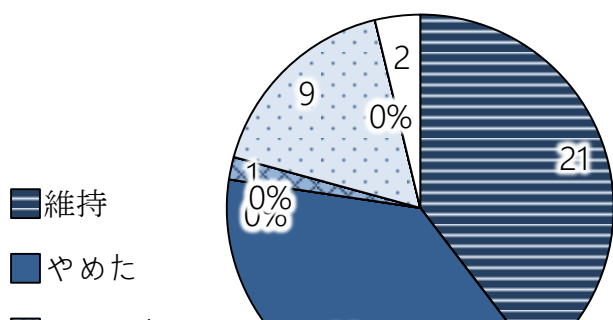


分類した。また、自由記載項目については、原文のまま掲載した。

図1 回答の分類方法

### 1. 生活技能について

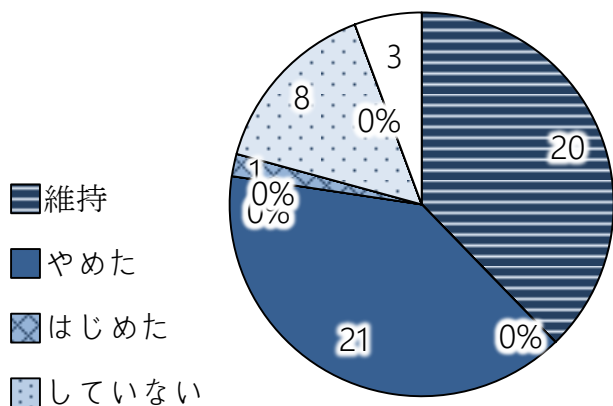
#### 読書



#### 工夫や援助の具体例 (計9件)

- <sup>10</sup>新聞の見出しで勉強する時、相手をして教えてる

## 手紙の読み書き

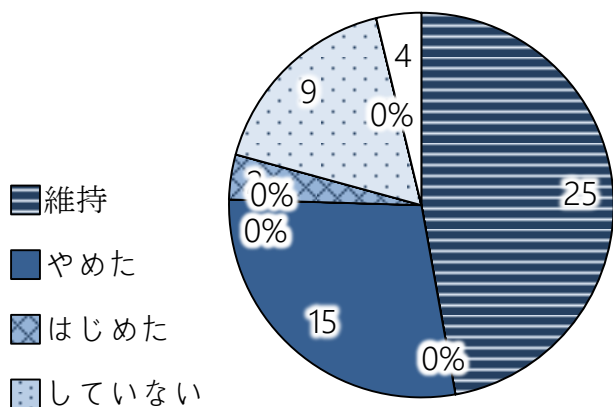


### 工夫や援助の具体例 (計9件)

案文を写す

文章はかけないが読むはできる

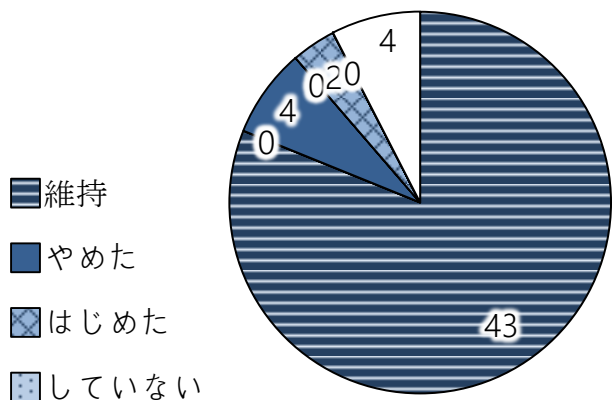
## ラジオを聞く



### 工夫や援助の具体例 (計2件)

はじめた、していない

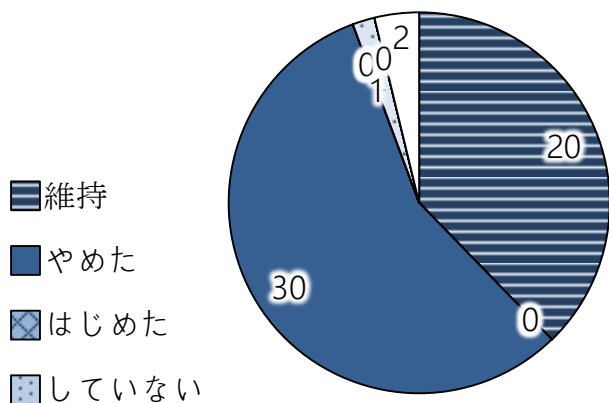
## テレビ視聴



### 工夫や援助の具体例 (計3件)

- 番組表から選ぶので録画する

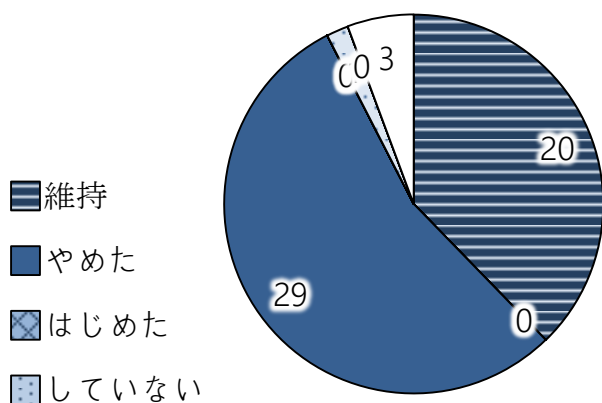
## 電話を受ける



### 工夫や援助の具体例 (計11件)

- 妻が受けて渡す
- 家族が付いて一言のみ

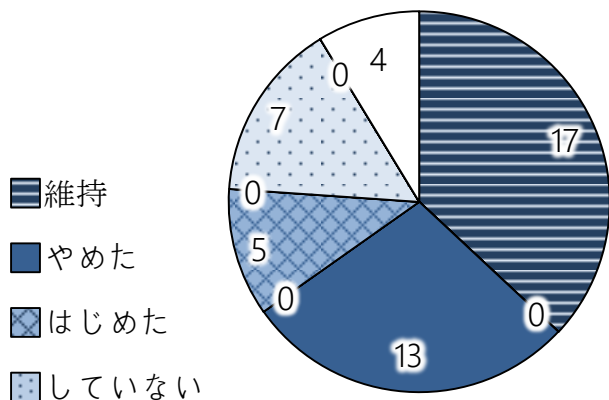
## 電話をかける



### 工夫や援助の具体例 (計11件)

- 発病後怖くて使えなかったが、努力した

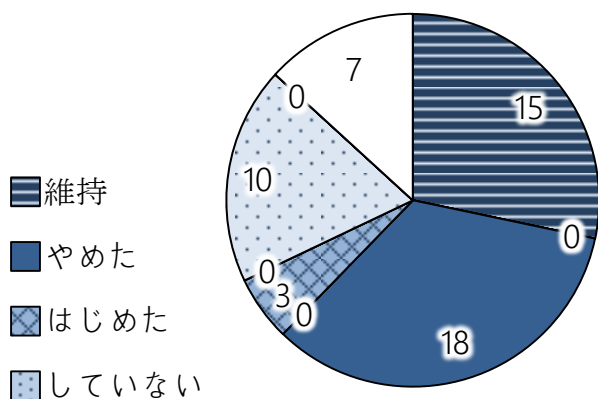
## 携帯電話を受ける



### 工夫や援助の具体例 (計8件)

- メールを使用
- 家族、限られた友人のみ

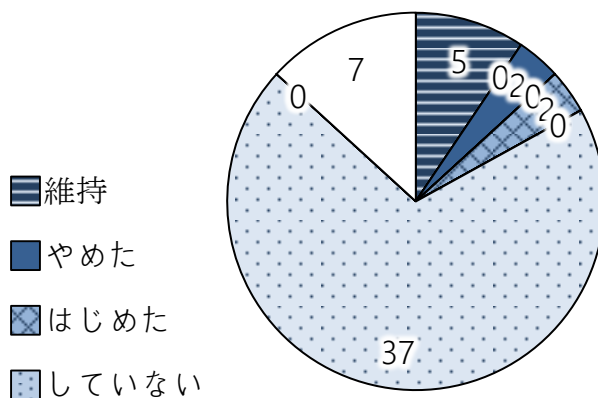
## 携帯電話をかける



### 工夫や援助の具体例 (計11件)

- ST指導の上毎日練習中
- 50音が分からないので、キーを打てな

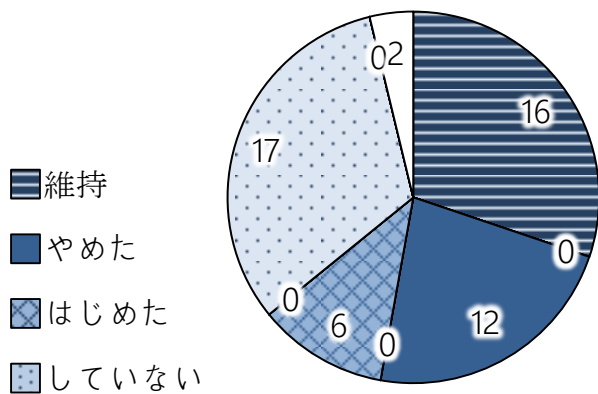
## スマホ使用



### 工夫や援助の具体例 (計6件)

- 操作が出来なくなると教える。メールの場合返信内容をいっしょに考え

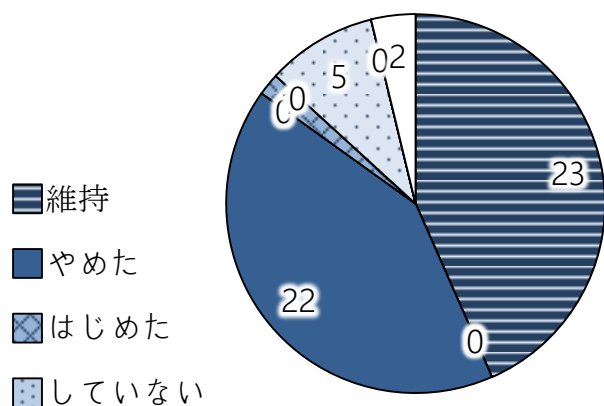
## パソコン使用



### 工夫や援助の具体例 (計10件)

- ST指導の上毎日練習中
- 50音が分からないので、キーを打てな

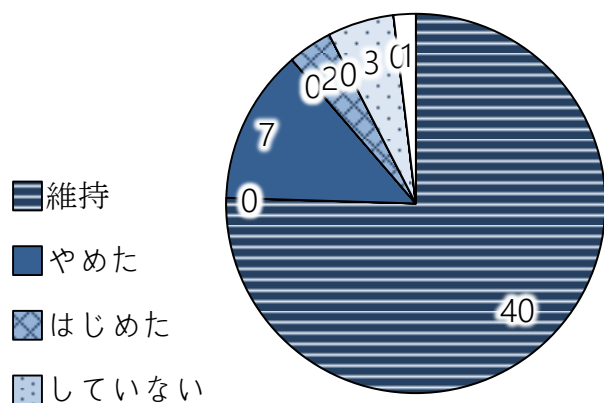
## 書類・説明書読む



### 工夫や援助の具体例 (計7件)

- 家族が説明
- 理解が出来ないといっしょに読み教え

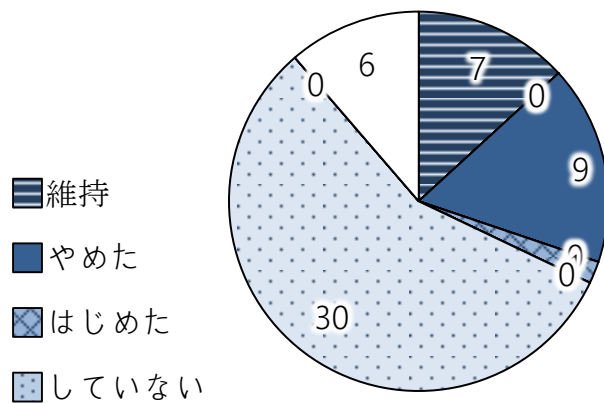
## 買い物 (店舗)



### 工夫や援助の具体例 (計9件)

- 家族が付く
- 買い物は目で確認して買う。
- 金額はレジの数字を目で見る

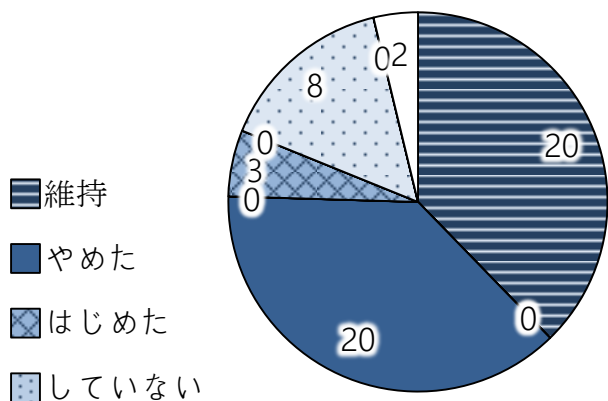
## 買い物(通販)



### 工夫や援助の具体例 (計3件)

- 文字を書くことができない

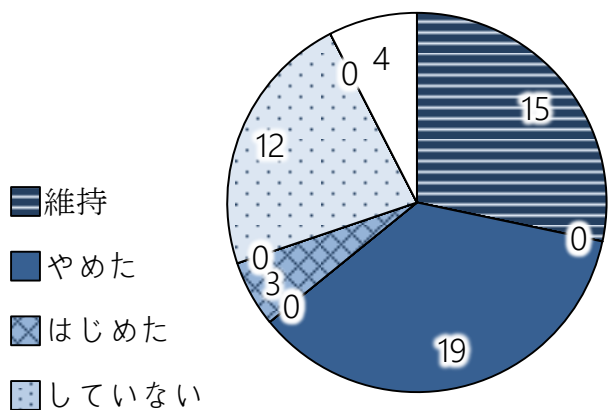
### 緊急時の対応(急病)



#### 工夫や援助の具体例 (計9件)

- 外出時、携帯 TEL、氏名、住所、TEL、かかりつけ HP 等のメモを持参する

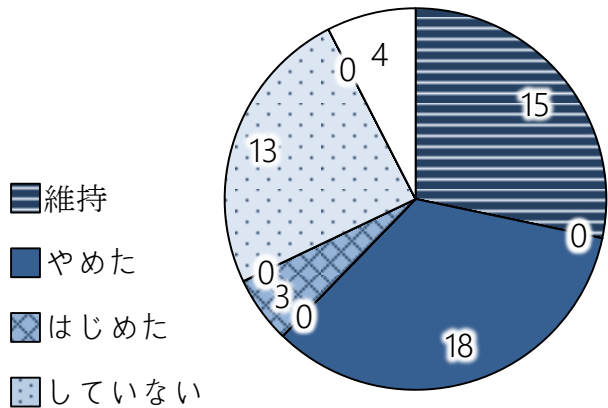
### 緊急時の対応(事故)



#### 工夫や援助の具体例 (計10件)

- 誰かがいないとダメです

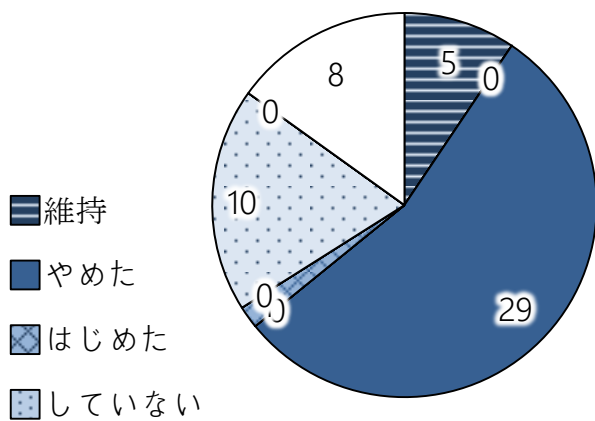
### 緊急時の対応(災害)



#### 工夫や援助の具体例 (計11件)

- 携帯電話で身内に連絡する

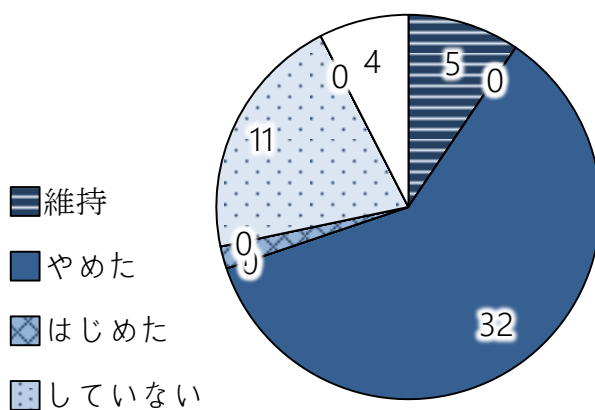
## 自動車運転



### 工夫や援助の具体例 (計5件)

- 家族が運転

## 自動車手続き

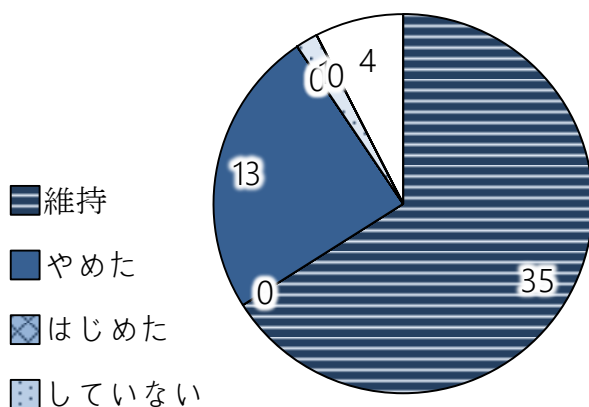


### 工夫や援助の具体例 (計6件)

- 家族がしている

## 2. 社会的ニードについて

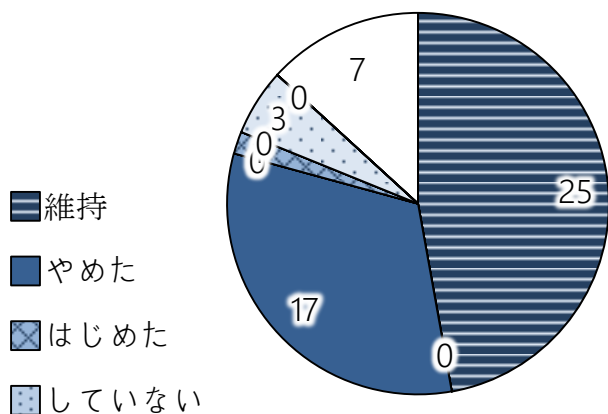
### 家族や親しい人と会話



### 工夫や援助の具体例 (計13件)

- 文字、絵、ゆっくり、はっきり簡潔に話すことで何とか理解しています

## 近隣の人と会話

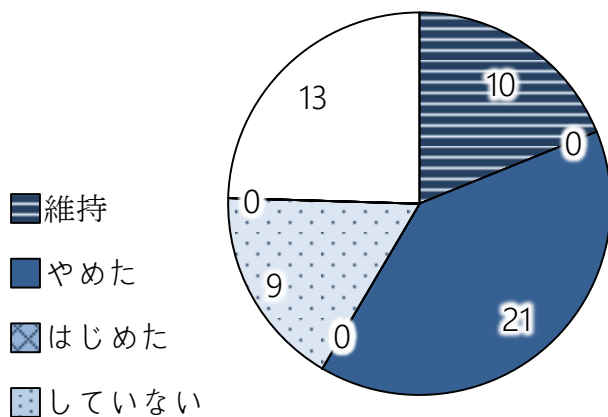


### 工夫や援助の具体例 (計10件)

- 挨拶位
- わからない時はもう一度確認する

見直しは、相手の立場に立って行う

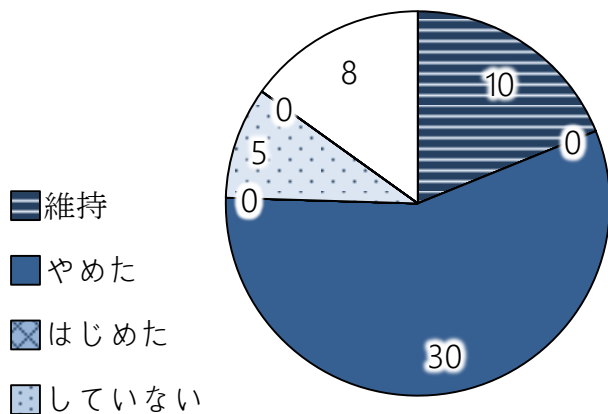
## 就労(学)



### 工夫や援助の具体例 (計9件)

- あまりしてない
- 少しの間していた。なるべく書くよう

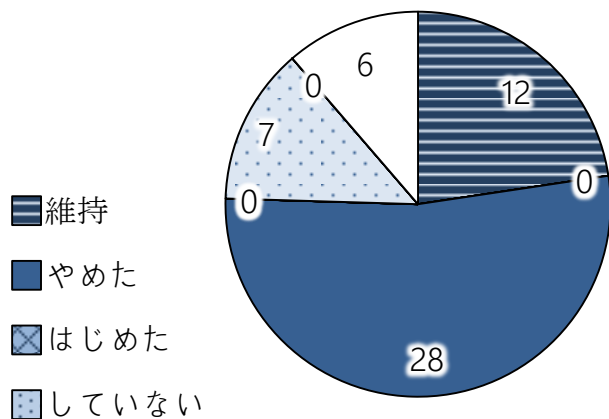
## 勤務・学業・予定管理



### 工夫や援助の具体例 (計6件)

- 勤ム先の配慮あり
- 家族が教える

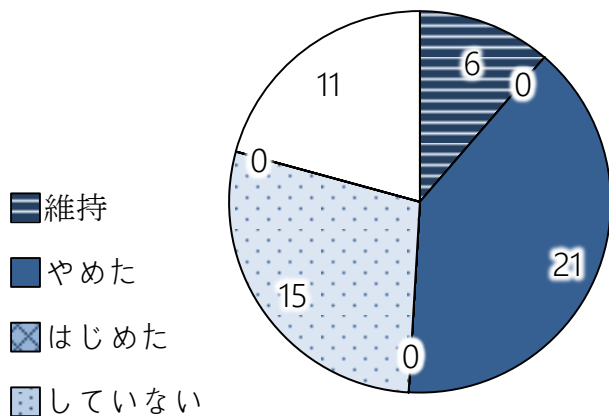
## 会や会議



### 工夫や援助の具体例 (計8件)

- 機会はない。やりたくない
- 家族と友の会に参加

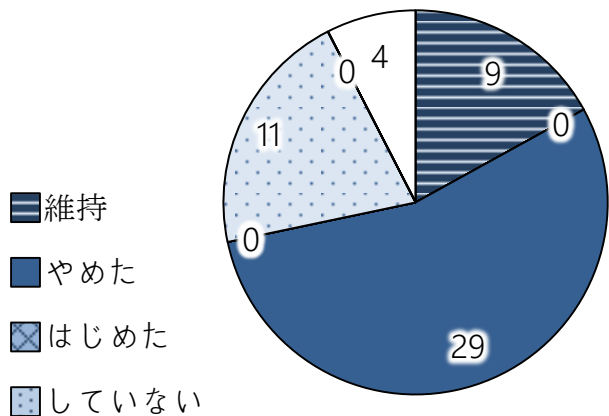
## 講義



### 工夫や援助の具体例 (計2件)

- メモをよくとる (50代男性)

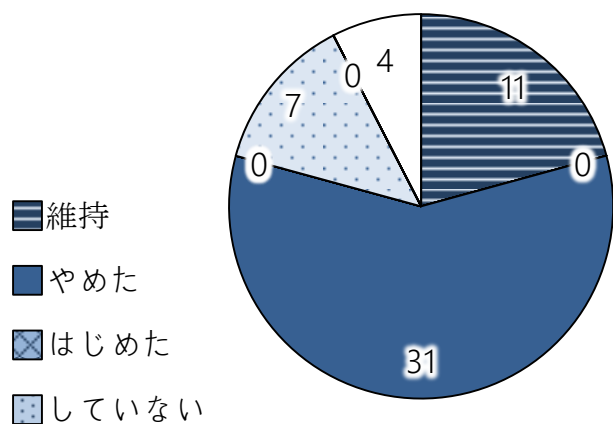
## 行政手続き



### 工夫や援助の具体例 (計7件)

- 家族と一緒に
- 家族が行う
- 病前から奥様がしていた

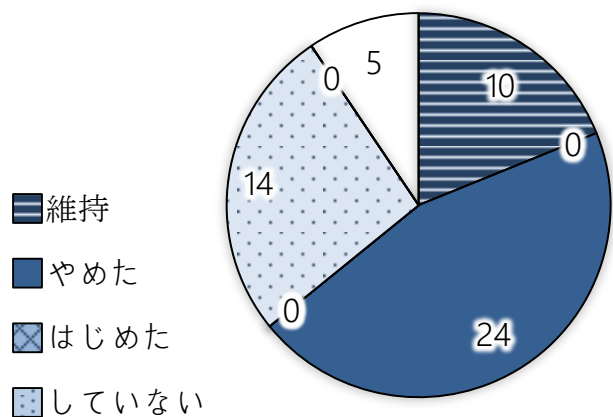
## 金融機関の手続き



### 工夫や援助の具体例 (計8件)

- 銀行に今は行かない
- 家族と一緒に

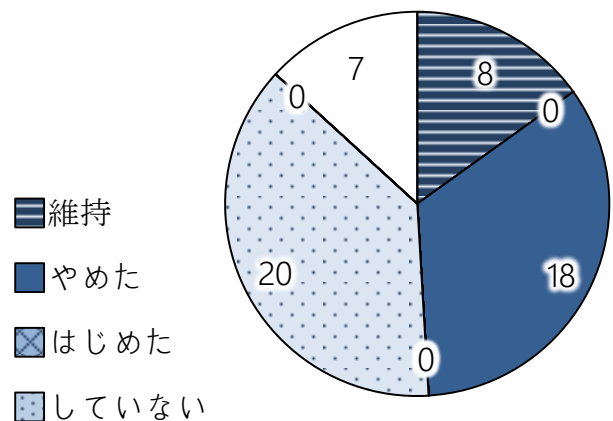
## 税務手続き



### 工夫や援助の具体例 (計4件)

- コンビニで支払いができる
- 家族が行う

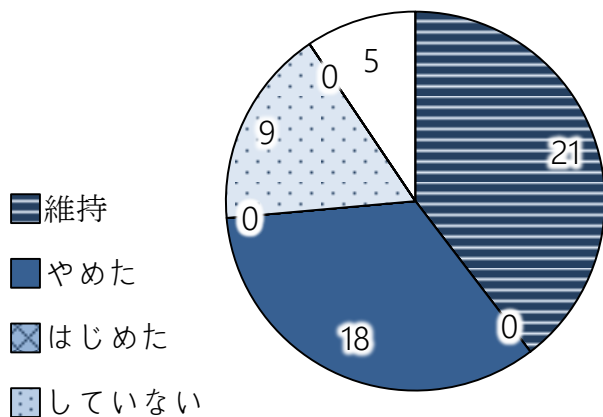
## 警察、裁判所関連



### 工夫や援助の具体例 (計3件)

- 使う事ない

## 選挙(情報収集)

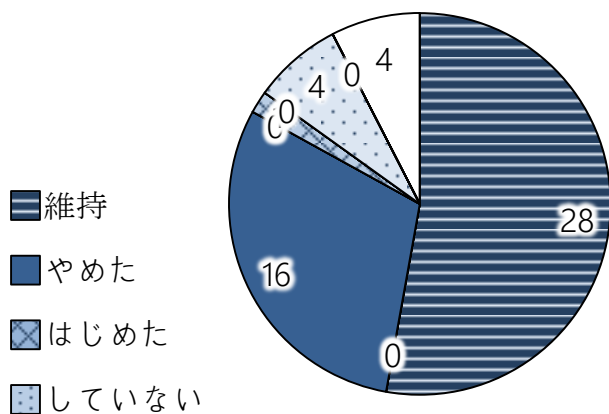


### 工夫や援助の具体例 (計8件)

- 手順の説明
- 会場までは家族、又は、ヘルパーさ

ノ 机西正で十極して十、ア十ナ

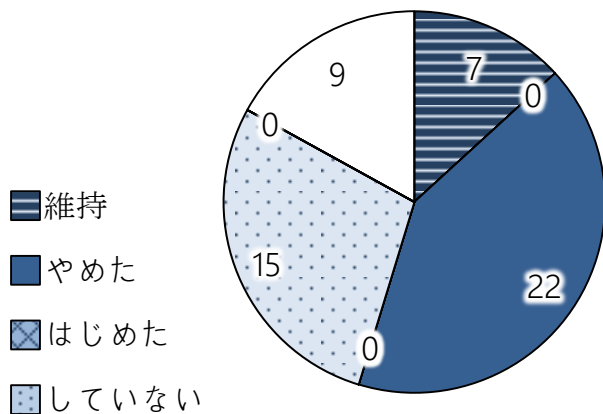
## 選挙(投票)



### 工夫や援助の具体例 (計9件)

- 行きたいと意思表示。選管の手助け必要

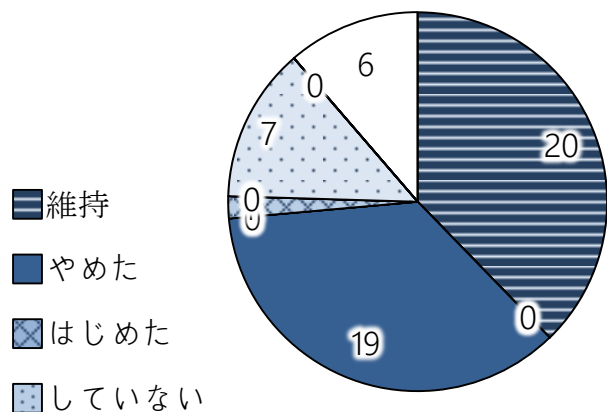
## チケット手配



### 工夫や援助の具体例 (計4件)

- ネット使用
- 電車で秩父まで1人で行ける。新幹線

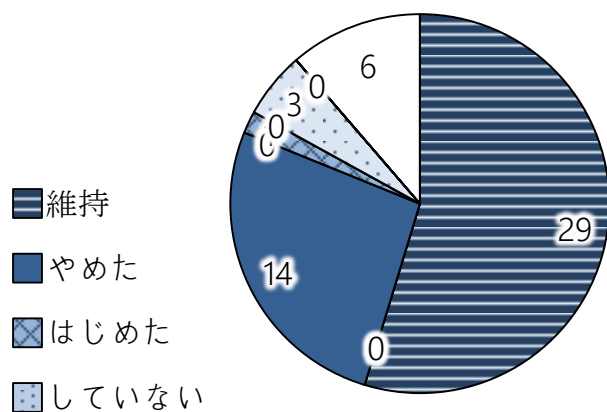
## カラオケ・映画・観劇



### 工夫や援助の具体例 (計7件)

- 自宅に器具を購入した
- カラオケのみ。施設がバリアフリーで

## 旅行



### 工夫や援助の具体例 (計13件)

- 家族とのみ
- 車椅子のため行先は選択不自由。年一回家族で東京へ

### 3. 困難を感じたこと

#### その他・困難事例、困難を感じたこと

- ・事故や災害に遭う時に外部の人に連絡したい時に失語と難聴のために TEL 出来ない
- ・病前は、ならい事 (カラオケ・押し花・おりがみ・ししゅう) をしていたがコミュニケーションがとりづらい事や右手が不自由さがあるため行くことがなくなったが友の会の集合場所に参加するようになった。家族とのコミュニケーションをとるが、他人とはなかなか取りづらい。
- ・選挙は付き添いがあればできるのに (投票所で断られたことがある)
- ・落とし物がふえた
- ・歩行が不自由なため、行動はんいが、かぎられる

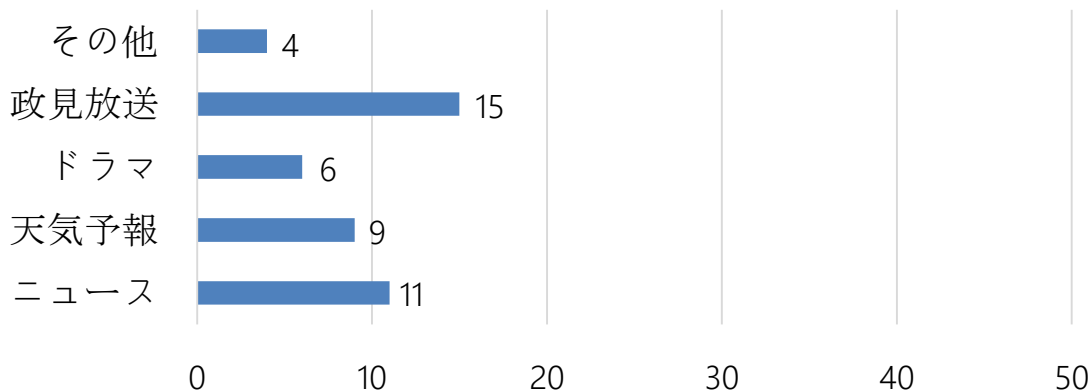
## その他・困難事例、困難を感じたこと

- ・耳が聞こえないのか、会話の内容を半分も理解、記憶にない。助けが必要です。他はいろんな機器の内容や使い方を教ってくれる方がいません。失語症者へは回復期や在宅での言語聴覚士は必ず機器の操作の指導が出来るよう各都道府県で研修学習会を徹底してください。
- ・電車、バス等、乗車下車する時、駅員の配慮があればと思います。(時々引かかる場合があります)
- ・健常者に近いように見える様で、急に前を横切ったり、スマホをやりながら近づいてきてぶつかりそうだったり、危険に思うことがあります。とっさのときは、大きな声を出してしまうので、危険人物に思われるのではと心配です。
- ・意志疎通ができず、何をしたいのか判らず、お互いに気分がおちこむ。最近こちらの話しするはほとんど理解できるが本人の要求が判らない。就労困難と考えているが本人がどう思っているのか、いつきり出すか(退職について)困っている。
- ・マーじゃん 毎週2回
- ・言葉が出ない
- ・選挙は投票したい気持はあるが選挙人名簿を見ても判別がつかず困難
- ・医者にかかる時、症状の説明などがむずかしい。
- ・早口で話しかけられると判断できない時がある
- ・失語症(書く、読む、聞く、話す、理解する)で家族以外では出来ない。又、高次脳機能障害(特に失行)があるので社会に出て行けない。本人はコミュニケーションがとれないのでSTの訓練をしたいけれどその場がない。リハビリで少し良くなったことも在宅になって維持が出来なく忘れていくのを感じている。今は訓練する(ST)ところがあればと思う
- ・4年前、退院時、ほとんど会話ができない状態だった。その後、しりあいと話をすぐのが私のつとめ。いまでは、ある程度okです。いのんが、人と会話をする事が、だいじ
- ・公共機関ではじめての所に出かけるときは不安がある

## 4 . その他、自由記載項目について

### ①情報収集 ( テレビ・ラジオ ) について

#### 現在わかりにくい番組

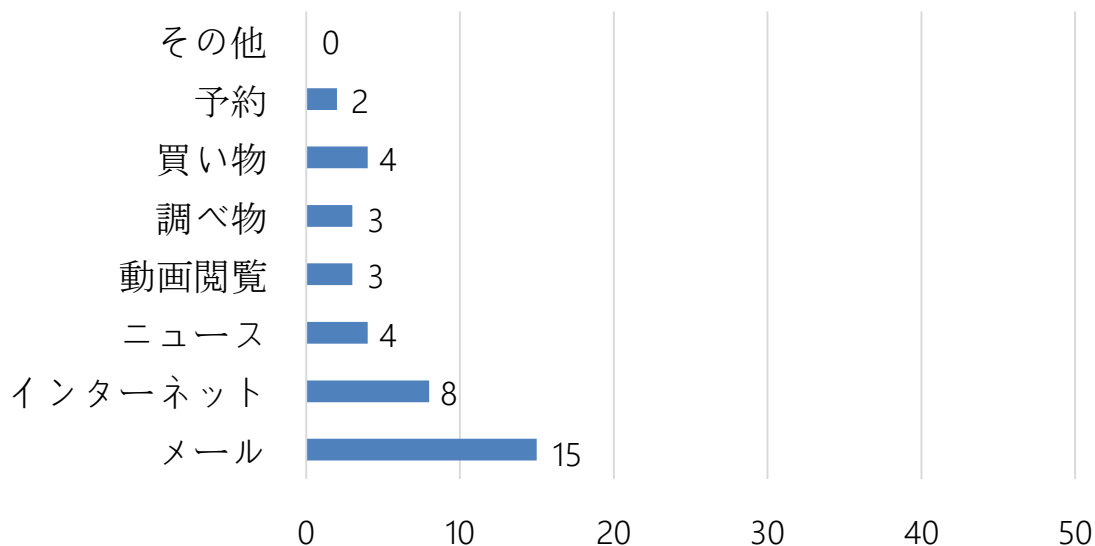


#### 視聴する際の工夫や援助

- ・難聴なので字幕を多くして欲しい
- ・字幕を出しています。字幕のあるものとないものがあります。字幕を真ん中に出している局があり、画面が見えにくいです。
- ・NHK 以外は見ないので不便はない
- ・政見放送がわかりにくい
- ・テロップが短かいので読む事が出来ない
- ・テロップの時間が短かい？
- ・テロップの時間が短すぎる
- ・レクシチャーヲウケル
- ・静かな場所で適性な音量（聞き取りが難しい）
- ・午後10時以降のテレビに興味あります。日中及び午後7時～9時前に放映があればありがたいです。
- ・デジタル、BS の操作をはじめ、日々の番組も新聞で点検 全てひとりで
- ・ニュース、政見放送－内容が理解出来ない
- ・見てるが、分からない（国会中継分からない）
- ・30分から1時間ほど見る（集中力が続かない）
- ゴルフなどスポーツは観れる（興味のあるものは観れる）
- ストーリーは関係なく、好きな俳優が出ていると見る

## ②携帯電話・スマートフォンの使用について

携帯電話・スマートフォン使用項目

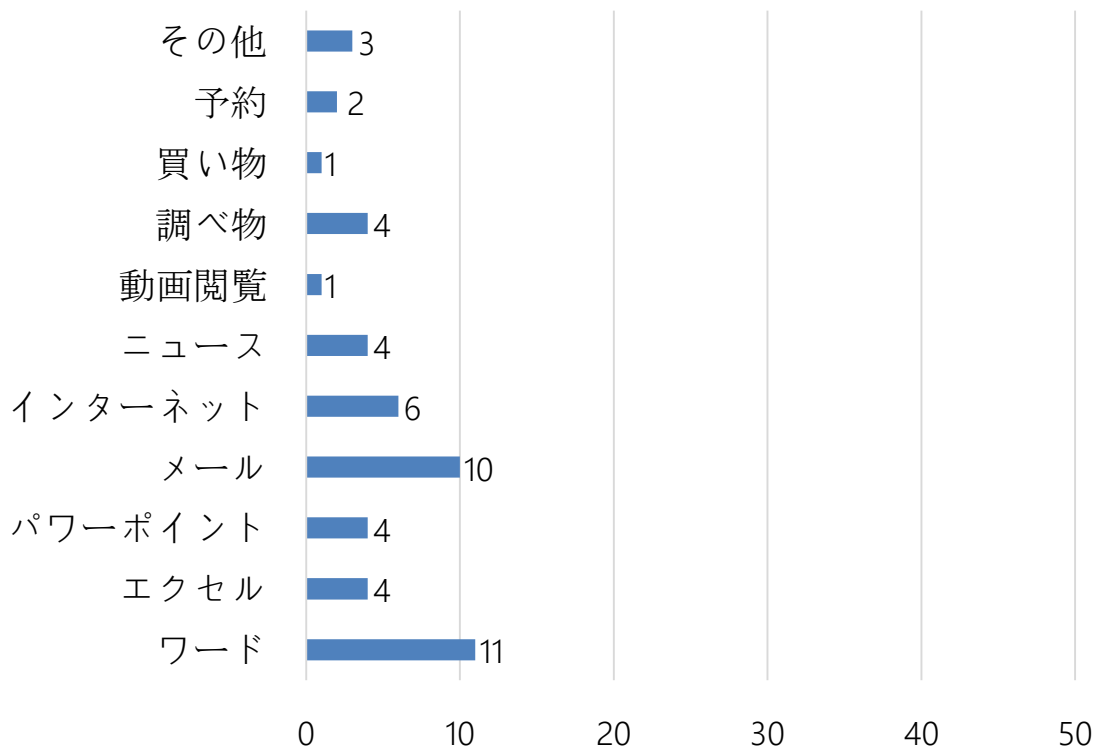


### 使用する際の工夫や援助

- ・主に家族や兄弟など親しい人との通信で、一緒に入れています。
- ・電話のみ使用
- ・今使用中
- ・ない (使っていない)
- ・ツカウガジカン10バイ
- ・メールのみ使わせて「インターネットは使えない」と言っています。有料サイトなど利用したら困るので。
- ・携帯電話 (スマートフォン) がもう少し安くなってくれればと思います。
- ・近頃将棋新聞がなくなったため、アイパッドで情報を得ようとするが操作がわからなかったりすると「モー、モー」の連発 (何をみたいのか判らず援助むつかし) インターネットにより失語症リハを行う (その日の気分によって積極的な日とこぼむ日あり)
- ・人のメール返信にとまどいいっしょに返事を考えて返信する。
- ・何も出来ない
- ・家族との最低限の連絡
- ・昔のように、ケイタイを処理できなくなった。
- ・予約するときは友達に頼む

### ③パソコンの使用について

パソコン使用項目



#### 使用する際の工夫や援助

- ・操作方法を老人向けに簡便にして欲しい
- ・パソコンのキーを打った時、音があると良いです。変換は、候補が上がるようになると良いと思います。
- ・パワーポイントは今は使用せず。その他は使用中
- ・テロップ短い
- ・私はパワーポイントが出来なく、研修等を実施してほしい。
- ・以前のようにトライするも出来ない事が多く。常にいっしょに作成しています。
- ・パソコンは使用出来ない。
- ・文書作成、ニュース、調べ物、インターネット特に無し
- ・エキスパートを使う。メールは文章短い、慣れてきた

#### ④就労・就学について

##### 支援・工夫について

- ・就労支援の場所。一度就労した時など、一人で通えるまで母が同行。その後、ヘルパさんをお願い。その後一人で行くことになった。
- ・漢字にはふりがなと会話時は文字にて要点を書いてもらっている。帰宅してからゆっくり辞書を引き内容を整理しています。書き止めておかないと、すぐに消えてしまいます。
- ・作業所を、すすめられた。
- ・職場の理解があった。1週5日を4時間の勤ム 就業時間8時30分から午後5時30分を9時から5時としました。
- ・就労は非常にむづかしいと回りは考えているが、退職時期にまよった時、制度一杯の活用等様々な人からアドバイスをうける
- ・ハローワーク、就労支援センター、医療の就労プログラム 最終的にはB型作業所で働いている
- ・都身障の職リハ6ヶ月 復職不可
- ・就労に対して障害者職業センターに相談 ハローワーク通して、結果病気(ミトコンドリア脳症)や障害の重度(検査されて)により就労より作業所B型にとのことで障害者職業生活支援センターの方に相談する通所するもコミュニケーションがとれずよくして頂いたけれど本人はやめてしまった その後在宅のみになった現在グループリハに月2回で通っている
- ・勤めをやめて、市のエンジョを受けている
- ・就労場所まで、バスで事前に行って確かめた
- ・支援センター 職業支援訓練
- ・前の職場で戻る話があった。マヒが強くてうまく戻れなかった
- ・週2~3のフレックス

## ⑤勤務・学業補助について

### 支援・工夫について

- ・企業側に障害の資料を渡して、社内にを回覧してもらった。しかし、資料を読んだぐらいでは理解は難しかった。
- ・ケアマネから近くのⓈの施設に話しあいに行ってほしい 私が失語症のサークル、あおぞらに勉強である。妻がⓈに入院している。断った。
- ・勤務中、外部の人との対応が出来ない時、同僚がかわって対応してくれる。
- ・周りの人と一緒に仕事している（以前は一人でも出来た）

## ⑥病前の趣味について

### 現在もしている趣味

- ・読書。自宅の庭の手入れを少しずつしている。通所リハビリも少しでも庭で手入れが出来る様リハビリをしている
- ・ジョギング
- ・ハモニカ、絵、旅行
- ・山登り・高山植物のテレビを観る
- ・野菜
- ・旅行
- ・山足き・趣味が沢山あった
- ・花々のサイバイ、料理
- ・パソコン
- ・阪神タイガースファン
- ・花道、大正琴
- ・登山
- ・囲碁
- ・パン（杉並）
- ・野球、旅行、音楽
- ・くみひも、きめこみ人形
- ・体操
- ・アーティストのコンサートに行く。（家族が同行、終るまで外で待つ）CDを聴く
- ・読書
- ・将棋、以前に比べ著しく腕がおちた事が判っているのか対局はいやがる。プラモデル、気がむいた時左手のみで行う。旅行、年1度家族で行くよう努力。今のところ東京のみ
- ・P.C. 動画鑑賞
- ・失行の為何もしていない（アウトドア） 自宅内で DVD（映画）、テレビを見るぐらい
- ・将棋、音楽
- ・朝のラジオ体操
- ・映画、マーじゃん
- ・写真、旅行
- ・スポーツ観戦（テニス、サッカー、相撲、野球）、酒、旅行

現在していない趣味

- ・旅行
- ・ゴルフ
- ・山足き
- ・花々のサイバイ、料理
- ・植木の世話
- ・スキー
- ・450ccのバイクでツーリング
- ・楽器演奏
- ・ゴルフ、飲酒
- ・山登り
- ・ゴルフ、将棋、マラソン、映画
- ・ドライブ、飲み会
- ・トランポリン
- ・鳩の飼育、卓球
- ・バスケットボール
- ・野球（少年野球の監督だった）
- ・パチンコ、競馬
- ・テニス、サッカー、ゴルフ

病前の趣味ではないが、現在している趣味

- ・自分のブログに投稿
- ・ハモニカや絵は、趣味というほどではありませんでしたが、好きでした。今は、中心になっていて、塗り絵、水彩を。ハモニカは、サークルに入って、施設訪問も参加しています
- ・温泉・散歩
- ・編物、佛絵
- ・太極拳
- ・ダーツ、囲碁、絵画（絵手紙）、カラオケ
- ・旅行
- ・写真撮り
- ・身体を動かす、運動
- ・車イスダンス、当事者会で料理、散歩、写真を撮る
- ・お絵書き
- ・本の原稿書き
- ・新聞将棋の棋譜記入
- ・サークルをたず
- ・映画をみること
- ・ウォーキング（足の運動）
- ・整骨院に行く

### Ⅲ．調査結果まとめ

#### 1. 発症後に維持している項目・率

アンケート項目毎に病後に維持している人数および、病前していた人数に対する割合を求めた。

項目	人数	維持率
テレビ視聴	43	91%
買い物（店舗）	40	85%
家族や親しい人との会話	35	73%
スマホ使用	5	71%
旅行	29	67%
選挙（投票）	28	64%
ラジオを聞く	25	63%
近隣の人との会話	25	60%
パソコン使用	16	57%
携帯電話を受ける	19	56%
選挙（情報収集）	21	54%
カラオケ・映画・観劇	20	51%
読書	21	51%

書類・説明書読む	23	51%
緊急時の対応(急病)	20	50%
手紙読み書き	20	49%
携帯電話をかける	15	45%
緊急時の対応(災害)	15	45%
緊急時の対応(事故)	15	44%
買い物(通販)	7	44%
電話をかける	20	41%
電話を受ける	20	40%
就労(学)	10	32%
警察、裁判関連	8	31%
会や会議	12	30%
税務の手続き	10	29%
金融機関の手続き	11	26%
勤務・学業・予定管理	10	25%
チケット手配	7	24%
行政手続き	9	24%
講義	6	22%
自動車運転	5	15%

自動車手続き	5	14%
--------	---	-----

## 2. 発症後にやめた項目・率

アンケート項目毎に病後にやめた人数および、病前していた人数に対する割合を求めた。

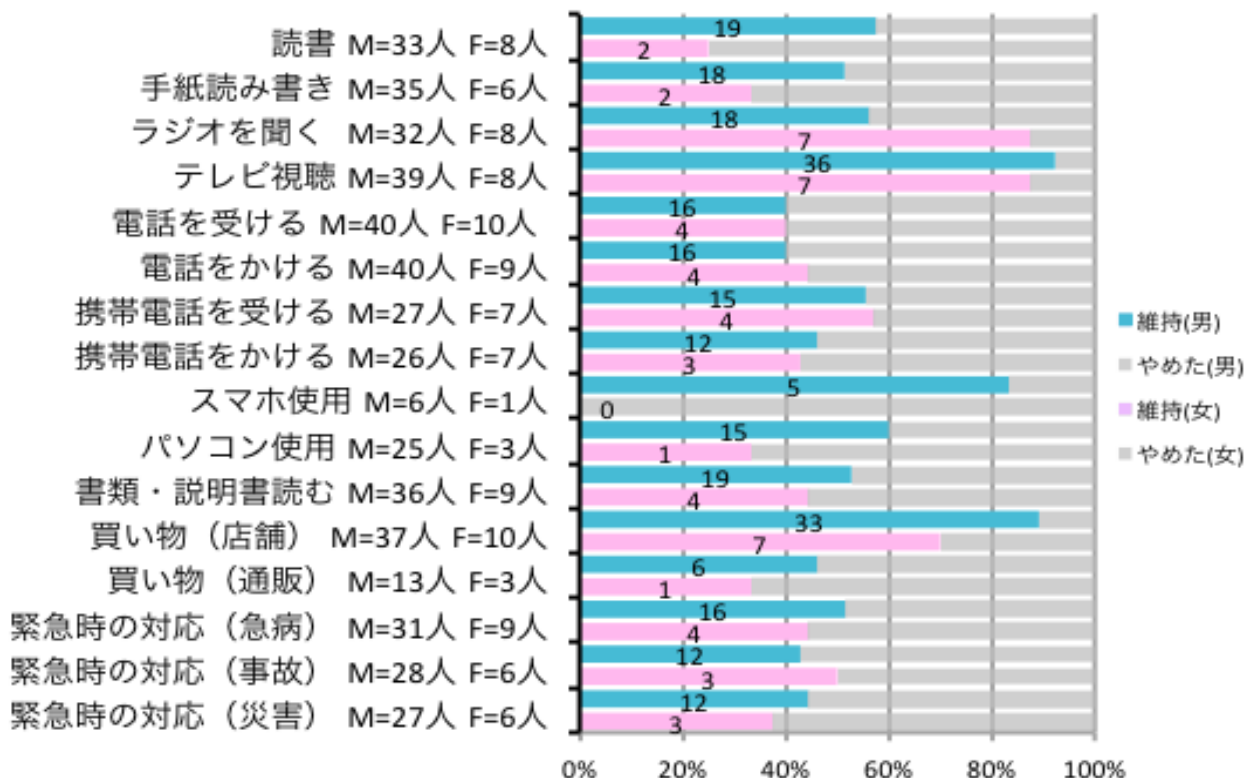
項目	人数	やめた率
自動車手続き	32	86%
自動車運転	29	85%
講義	21	78%
行政手続き	29	76%
チケット手配	22	76%
勤務・学業・予定管理	30	75%
金融機関の手続き	31	74%
税務の手続き	24	71%
会や会議	28	70%
警察、裁判関連	18	69%
就労(学)	21	68%
電話を受ける	30	60%
電話をかける	29	59%
買い物(通販)	9	56%

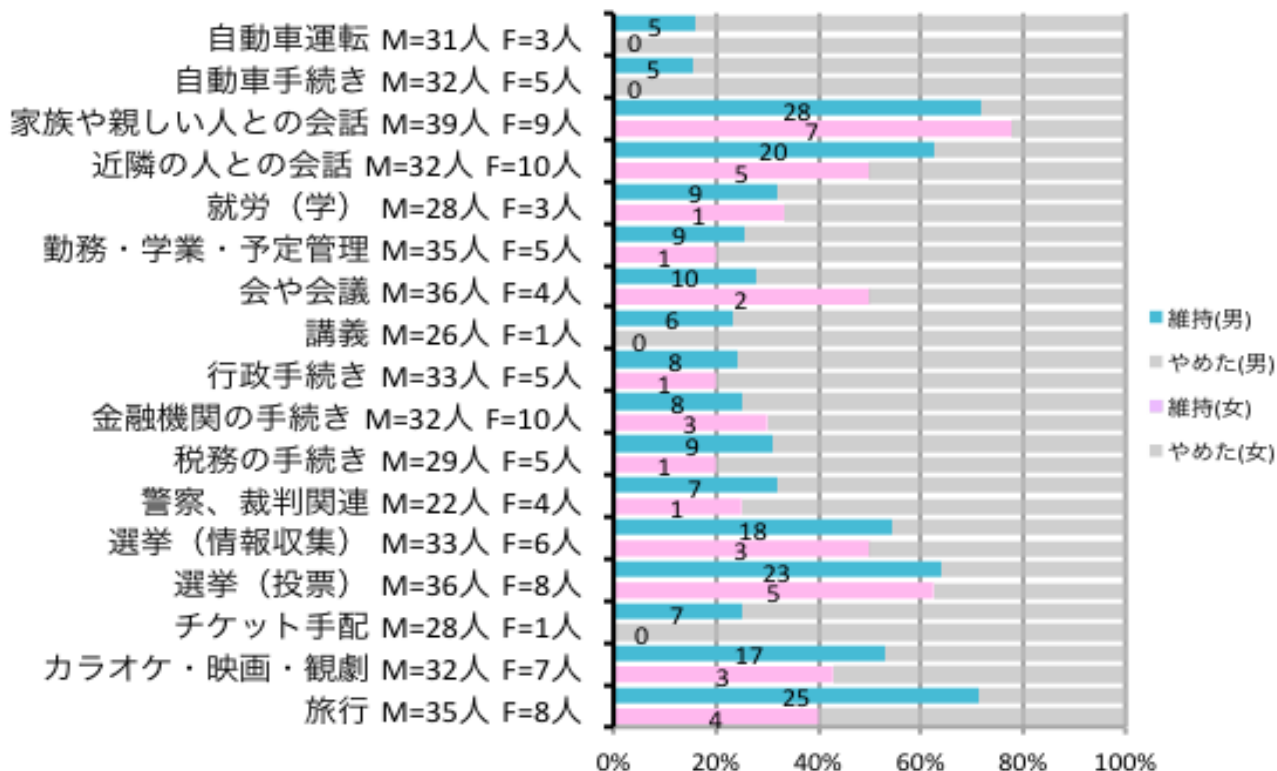
緊急時の対応（事故）	19	56%
携帯電話をかける	18	55%
緊急時の対応（災害）	18	55%
手紙読み書き	21	51%
緊急時の対応（急病）	20	50%
書類・説明書読む	22	49%
読書	20	49%
カラオケ・映画・観劇	19	49%
選挙（情報収集）	18	46%
携帯電話を受ける	15	44%
パソコン使用	12	43%
近隣の人との会話	17	40%
ラジオを聞く	15	38%
選挙（投票）	16	36%
旅行	14	33%
スマホ使用	2	29%
家族や親しい人との会話	13	27%
買い物（店舗）	7	15%
テレビ視聴	4	9%



### 3. 維持・やめた 男女差

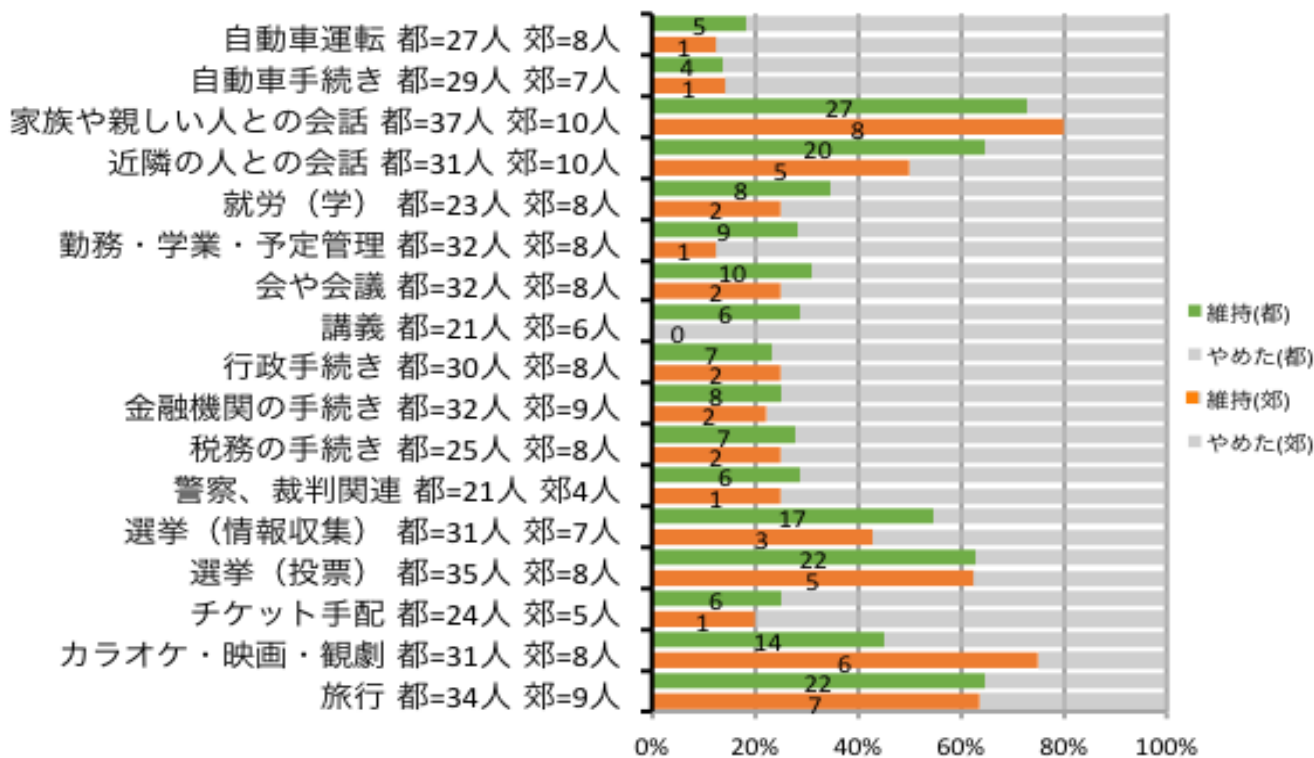
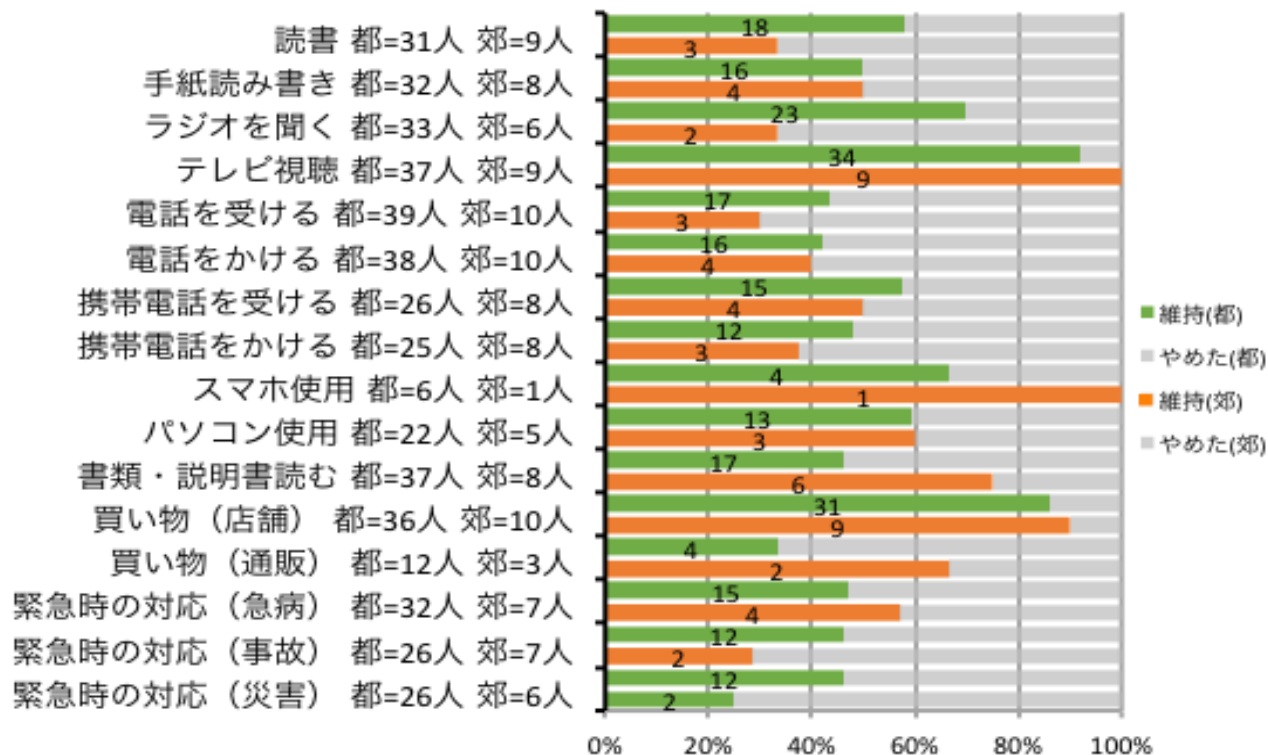
アンケート項目毎に病前していた人数のうち、維持した人数、やめた人数の男女差を分析した。なお、群間比較にはフィッシャーの正確確率検定を用いた。結果として、アンケート回答に男女差は見られなかった。





#### 4. 維持・やめた 居住地 (都市部在住、郊外在住) の差

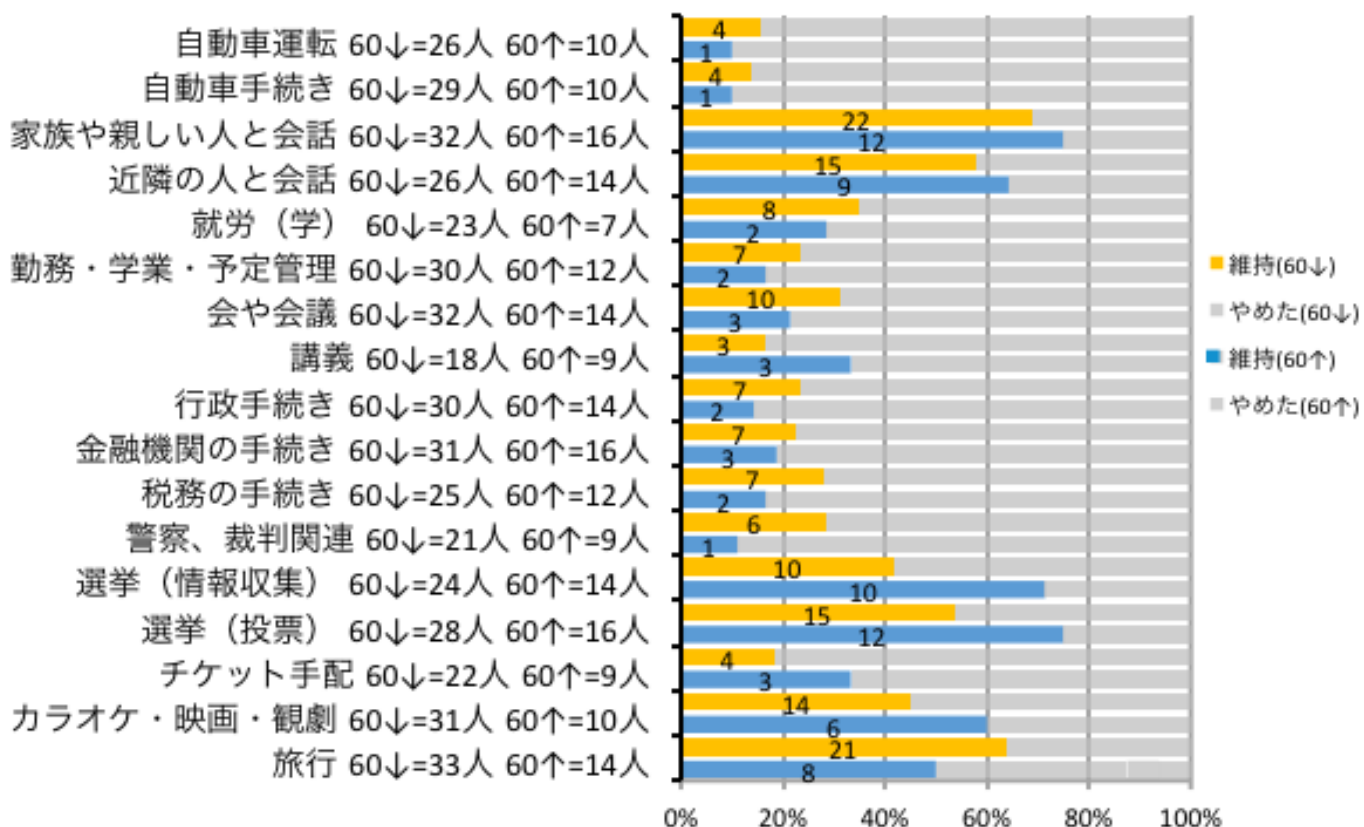
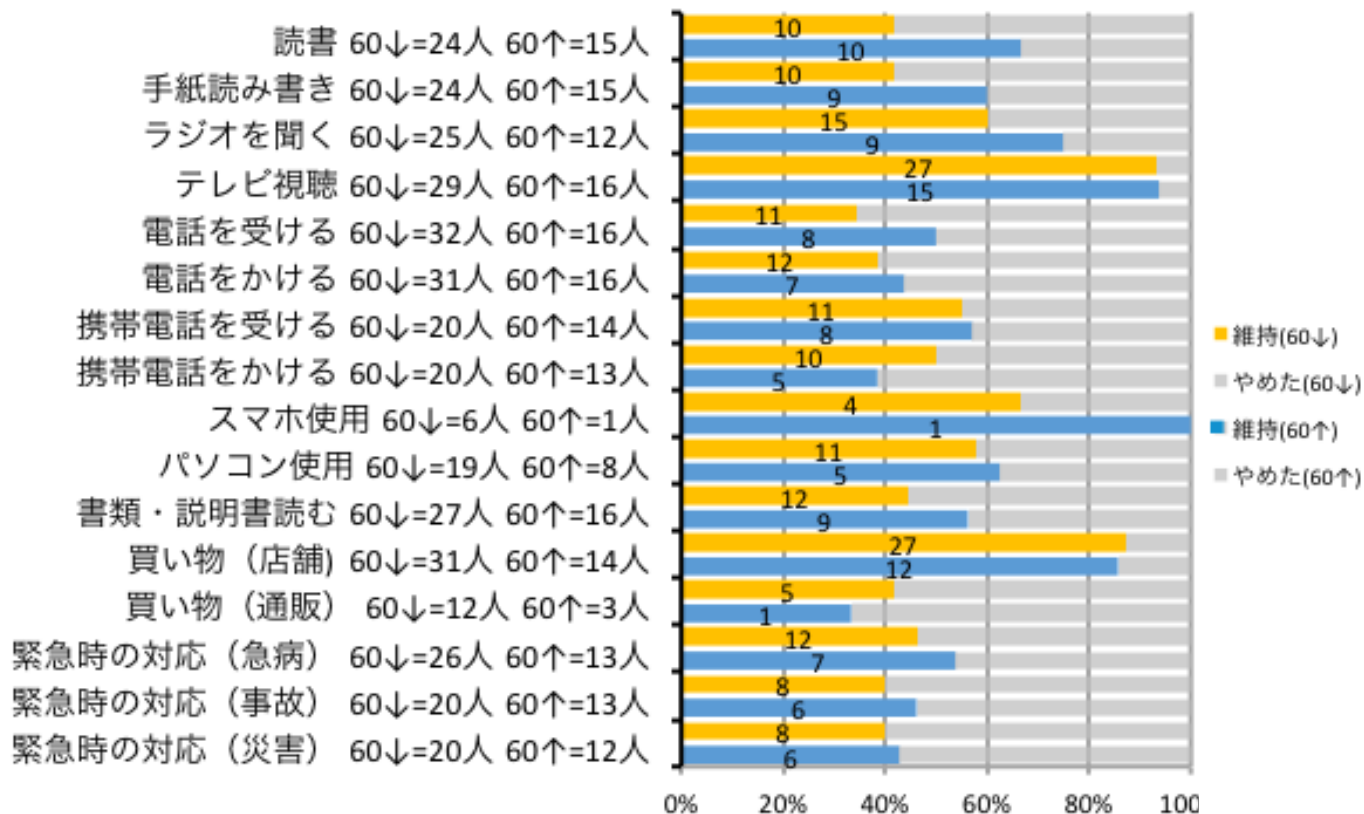
アンケート項目毎に病前していた人数のうち、維持した人数、やめた人数の居住地による差 (都市部在住、郊外在住) を分析した。なお、群間比較にはフィッシャーの正確確率検定を用いた。結果として、アンケート回答に居住地による差は見られなかった。



### 5. 維持・やめた 発症時年齢 ( 60 歳未満、60 歳以上 ) の差

アンケート項目毎に病前していた人数のうち、維持した人数、やめた人数の発症時年齢による差 ( 60 歳未満、60 歳以上 ) を分析した。なお、群間比較にはフィッシ

ヤーの正確確率検定を用いた。結果として、アンケート回答に発症時年齢による差は見られなかった。



## IV . 失語症のある方のニーズについて

調査結果まとめより、失語症のある方の以下のニーズが抽出された。

### 1 . 行政機関、企業に対して

・維持が困難なものでは、手続きが多かった（行政・税務・運転免許、保険等・金融機関）。手続きの簡略化や文言の読みやすさの必要がある。

・就労・就学は半数が維持できなかった。業務内容の見直しや支援がより必要となる。

・緊急時の対応、特に家族や知人の急病に対しては、比較的難しい課題であるが維持をしている人が多かった。緊急の連絡等は今後も必要となる。さらに、災害時の対応についてはほとんどできていない。特に力を入れるべき項目である。

### 2 . 行政機関に対して

・テレビ、読書などは比較的維持が多かったものの、選挙の情報収集は半数以下が維持できていない。政治への参加は国民としての権利であるため、よりわかりやすい選挙公報が求められる。

### 3. 企業に対して

・趣味(カラオケ・映画・観劇、旅行)の維持は多かったが、チケットの手配の維持はほとんどなかった。元々低いものではあるが、より手配がしやすいシステムや補助が必要となる。

・通信では、電話の維持が困難であった。また、スマートフォンを発症後にはじめる一群も存在した。よって通信機器(特にスマートフォン)の簡略化、アプリの非言語的なわかりやすさ、使いやすさが必要である。

## V . 文献

笹沼：失語症の言語症状。「失語・失行・失認 <精神科 MOOK No.1>」金

原出版 pp.6,1982

Huxら:失語症者の拡大・代替コミュニケーション.訳細川,監訳河内,河村.

失語症言語治療の理論と実際 第3版,創造出版,pp.467-493, 2003

松田ら：失語症者のリハビリテーションと社会参加に関する調査研究

事業 第二次調査報告書,p.1, 2009

八島ら：「失語症の人の生活のしづらさに関する調査」結果報告

書,2013,pp.6~7

## VI . 調査用紙

### 新規コミュニケーション補助機器作成に向けた失語症者のニーズ調査

現在失語症の方のについて

性別： 男 ・ 女

年齢： 歳

発祥してからの期間： 年

現在のお住まい： 都市部 ・ 郊外

新規コミュニケーション補助機器作成に向けた失語症者のニーズ							
項目	病前		病後		現在している場合		
	してい た (○)	してい ない (✕)	してい る (○)	してい ない (✕)	工夫・ 援助有 (○)	工夫・ 援助無 (✕)	工夫や援助の具体例
<b>生 活 技 能</b>							
読書							
手紙読み書き							
ラジオを聞く							
テレビ視聴							
電話を受ける							
電話をかける							
携帯電話を受 ける							
携帯電話をか ける							
スマホ使用							
パソコン使用							
書類・説明書読 む							
買い物 (コンピ ニ・スーパー・商 店・百貨店など)							
買い物 (通販・ インターネット)							
緊急時の対応 (家族・知人の急 病など)							
緊急時の対応 (事件・怪我・事 故など)							

緊急時の対応 (火災・地震・水 害など)							
自動車運転							
自動車手続き (免許書き換 え・保険等)							
社 会 的 ニード							
家族や親しい 人との会話							
近隣の人との 会話							
就労 (学)							
勤務・学業 予定管理							
会や会議							
講義							
行政手続き							
金融機関の手 続き							
税務の手続き							
警察、裁判関連 でのコミュニ ケーション							
選挙 (情報収 集)							
選挙 (投票)							
チケット手配							
カラオケ・映 画・観劇							
旅行							
その他・困難事 例、困難を感じ た事を書いて ください。							



\*その他、具体的な記入が可能な場合、ご協力をお願いします。

1) 情報収集 (テレビ・ラジオ) について

現在わかりにくい番組がありましたら具体的に書いてください

\* ニュース・天気予報・ドラマ・政見放送・その他

\*視聴する際に、工夫や援助がある場合どのようなものを具体的に書いてください

2) 携帯電話・スマートフォンの使用についてしている項目は何か

\*メール・インターネット・ニュース・動画閲覧・調べ物・買い物・予約・その他

\*工夫や援助がある場合どのようなものを具体的に書いてください

3) パソコンの使用についてしている項目は何ですか

\*ワードなど文書作成・エクセルなど集計作業・パワーポイントなど資料作成・メール・インターネット・ニュース・動画閲覧・調べ物・買い物・予約・その他

\*工夫や援助がある場合どのようなものを具体的に書いてください

4) 就労・就学について質問

\*相談や情報収集で支援を受けたり工夫をされたりしましたか

支援・工夫があった ・ なかった

支援・工夫があった場合どのようなものかを具体的に書いてください

5) 勤務・学業補助について、支援・工夫のあった場合どのようなものかを具体的に書いてください

6) 病前の趣味について

病前の趣味で、現在もしている趣味があったら具体的に書いてください

病前の趣味で、現在していない趣味があったら具体的に書いてください

病前の趣味ではないが現在している趣味があったら具体的に書いてください

## Ⅶ．謝辞

「新規コミュニケーション補助機器の作成に向けた失語症者のある方々のニーズ調査」報告書作成には多くの方に御協力いただきました。全国47都道府県の協議会加盟友の会の方々、協議会加盟なさっていない失語症のあるの方々、そのご家族の方々に感謝を申し上げます。

また、言語聴覚士の黒川容輔先生、浜田智哉先生、臨床福祉専門学校の飯塚祐基様、菊地香織様には報告書の作成をしていただきました。

報告書のアンケートの作成から集計・作成に至るまでの長期間、貴重なお時間を割いていただきました。心から御礼を申し上げ、改めて感謝の意を表します。

本報告書が、失語症のあるの方々へ新たに開発される支援機器の作成に少しでも役に立ち、開発が進んでくれることを願って止みません。

多くの方々の御尽力、御支援に支えられ、この報告書が完成いたしました。

ましたことに心より感謝申し上げます。また、報告書の作成費用の一部は失語症訓練特化型デイサービス(株)言語生活サポートセンター様のご支援をいただきました。ありがとうございました。

特定非営利活動法人 日本失語症協議会理事長 八島三男